

古墳の履歴書プロジェクト・公開シンポジウム  
古墳の履歴書 —近世の地域社会と古墳景観—

科学研究費助成金・基盤研究(C)「古墳に由来する文化的景観の総合的研究」  
(2020～22年度／研究代表:築瀬大輔)

1. 趣旨

近代考古学以前、古墳(3～7世紀の墳墓遺跡)は地域社会においてどのように認識され、どのように保存されてきたのだろうか。破壊を免れてきた多くの古墳にはどのような履歴と理由があるのだろうか。我々が今日目にする古墳は、神社や仏堂が祀られたり、交通上の目安(ランドマーク)になったりなど、あるものは新たな機能を持たされ、あるものは景観要素として新たな意味を与えられてきた可能性がある。

そこで本シンポジウムでは、歴史学・歴史地理学・民俗学・考古学の立場と方法で比較的検証が可能な近世の「地域の古墳」を対象に、それがコミュニティ形成、環境基盤形成、経済循環と密接に関係してきたことを明らかにする。そして地域持続という現代的課題の観点から、歴史的な遺跡(土木構造物や場)にいかにかして社会的・文化的な資源性が備わるようになったのかを考察するものである。

2. 主催等

古墳の履歴書研究会

3. 日時

10月30日(日) 13:00～17:00

4. 会場と定員

会場:群馬県立女子大学 2号館 第1講義室 定員:80名

5. プログラム

趣旨説明	13:00～13:10
〈歴史学からのアプローチ〉	
「古墳に神仏を祀るということ —群馬郡下滝村とお伊勢山古墳—」	13:10～13:30
小嶋 圭 (群馬県地域創生部文化財保護課)	
「近世村落空間のなかの古墳 —緑埜郡上落合村と七輿山古墳—」	13:30～13:50
佐藤 有 (群馬県立歴史博物館)	
「天明の打ち毀しと古墳に結集する人々 —佐位郡波志江村と愛宕山古墳—」	13:50～14:10
築瀬 大輔 (群馬県立女子大学)	(休憩)
〈歴史地理学からのアプローチ〉	
「江戸の大衆と名所化する古墳 —江戸近郊古戦場の古墳—」	14:25～14:45
田中 健司 (國學院大學大学院研究生)	
〈民俗学からのアプローチ〉	
「豊城入彦命がいなかったころ —佐位郡八寸村と権現山古墳群—」	14:45～15:05
佐藤 喜久一郎 (育英短期大学)	
〈考古学からのアプローチ〉	
「発掘調査で見つかった信仰の場としての古墳—群馬郡総社町と蛇穴山古墳—」	15:05～15:25
小川 卓也 (前橋市教育委員会文化財保護課)	(休憩)
意見交換	15:40～16:30
コメント	16:30～16:45

6. 参加方法

主催者(築瀬大輔/yana-dai@mail.gpwu.ac.jp)あて、メールに氏名・所属・電話・メールアドレスを明記の上、開催前日(10月29日・金)までにお申込みください。参加費は無料です。